

会 議 録

名 称	平成 29 年度第 5 回岸和田市地域公共交通協議会									
開催日時 及び場所	平成 30 年 3 月 27 日（火）午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分 岸和田市立産業会館 2 階集会室									
出席者 委員 29 名 うち 出席 19 名 代理 5 名	土佐	春木	津村	大井	阪部	多和	小出	長澤	岩佐	山崎
	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	酒井	辻	澁谷	片桐	吉野	安藤	西田	寺田	北口	水内
	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	日野	伊勢	湯川	田内	太田	安渡	別所	西岡	土井	
	○	×	○	○	×	×	×	×	×	
	事務局（まちづくり推進部市街地整備課） 実森課長、岸田交通政策担当主幹、森下主査、本田主査、新谷									
傍 聴 者	1 名									
<<概要>> ■ 議事 ① 岸和田市交通まちづくりアクションプランについて ② 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編】について ③ 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【総合交通戦略編】（素案）について										
<<内容>> ■ 岸和田市地域公共交通協議会の会議録について （会長） 会長より本日の会議録署名人として西田委員を指名 ■ 内容 ① 岸和田市交通まちづくりアクションプランについて （事務局） 資料 2 を用いて説明 <div style="text-align: center;">～委員からの質問～</div> （会長） 意見、質問等あるか。 なければ本日の協議会の位置付けを確認いただいたということで①岸和田市交通まちづくりアクションプランについては終えたい。										
② 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編】について （事務局） 資料 3 を用いて説明 <div style="text-align: center;">～委員からの質問～</div> （会長） 意見、質問等あるか。 （副会長） 参考までに。 歩道設置率、大型バスの通行可能な区間、延長割合について、もし分かれば次回に教えていただきたい。 （事務局） 大型バスの通行可能な路線のデータがあるかどうかは不明である。歩道設置率については確認し、次回ご報告させていただく。 （副会長） 今後実践していく上で参考に教えていただきたい。 （会長） その他、意見・質問がなければ了承とし、②岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編】については終えたい。										

③ 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【総合交通戦略編】(素案)について

(事務局) 資料3を用いて説明

～委員からの質問～

(会長) 意見、質問等あるか。

(委員) 84頁の評価指標について。目標値はどういった根拠で設定されているのか。

(事務局) (129頁、評価指標の算出方法について説明)。

(委員) 129頁。人口に対する鉄道駅乗車人員がどんどん上がっているような記載があるが、岸和田駅の場合、平成4年に乗降客32,000人、平成14年には23,000人で減少している。下がり方が南大阪で1番である。急激に乗降客数が下がっている。この近辺で乗降客が増加しているのは泉大津駅と和泉府中駅である。去年の岸和田駅で24,000人であった。約一万人下がっている。なぜこれだけ上がるようになるのか。

(事務局) これは純粋な乗車人員ではなく、人口に占める割合である。

(委員) 分母が下がっている。どれくらい下がっているのか。実際はそんなに下がっていない。人口が半分になったら、乗車人員割合が倍になるということか。そんなデータはおかしい。

(事務局) 人口と乗車人員については、11頁に人口の増減、24頁に駅ごとの乗車人員のデータを記載している。これを見ると、以前、岸和田駅は減り方がダントツであったが、平準化されている。近年、ここ10年はおそらくインバウンド効果で乗車人員に関しては若干ではあるが微増傾向である。129頁の数字は市内の7つの駅の合計で算出しており、人口減は少ないが、純粋な乗降者数としても概ね微増傾向である。

(委員) 乗車人員を人口で割るのがおかしいと言っている。なぜ岸和田駅が減ったかという点、周辺が高齢者ばかりになり、人口が減っており、空家だらけになっている。久米田駅や東岸和田駅は、山手地区の人が使う。鉄道を利用する人を全体の人口で割ること自体が間違っている。それなら岸和田駅勢圏の人口で割るべきである。データとしては全くおかしいデータになってしまう。

(副会長) 特定の駅の乗車人員を駅勢圏人口で割ると、全体の公共交通の利便性が評価されない。中心となる駅にバス等を使って来て、鉄道に乗るとというのが一般的であることを考えると、駅勢圏や徒歩圏内だけの人口で割ることは適切ではない。岸和田市全体として公共交通をどうしていくのかを考えると全体で考えた方がよい。例えば岸和田駅の24,000人が少ないとなると、もっと外出をしてもらって岸和田駅にアクセスできるような仕組みとしての公共交通を考える。そうするとおそらく連動して岸和田駅へ行くバスの乗客数も増えなくてはならない。そういう考えで記載しているはずである。岸和田駅へ一極集中するわけにはいかないのだから、駅勢圏を考えながらどこへどうアクセス出来るか、どんな交通ネットワークになるのかを考える。そういう事なので全体としては全体の人口で割って考えるべきである。

(会長) このデータをどう分析して生かしていくか。

(副会長) 24頁の駅の乗車人員を見ると、平成元年からは減っているが、平成16年あたりからは横ばいである。129頁は、先程ご質問いただいた、目標値の設定の仕方の解説なので、現在微増している状況が続けられるように目標値を設定した、という事を説明しているだけなので、これを変える必要性はない。

(委員) 変える必要はないが、注意して見なければならぬ。

(会長) 例えば129頁の説明で委員がおっしゃっているように、過去より乗車人員は減少しているが近年は横ばいであり、人口に対する乗車人員は現状微増となり理想的である、というような一文を確認のためにも記載すれば、誤解も解けるのではないか。

(事務局) 誤解のないような記載としたい。

(副会長) 本当の所を言うと、目標値が「今の微増を継続」というのはおかしい。何もしなくてもそうなるはずである。最低の目標値を設定しているわけで、理念があって目標があるときに、その目標を達成するために色々な施策がある。その施策を実施することでどれくらいフィードバックされるかという事が大事である。その経過として、目標値を設定している。今はそれが明確に出ていないので現状維持という形になっているが、本当であれば施策を実施することで効果が適切に評価される、という事が大事である。その結果として利用客が増加、ということになれば良いが、施策がうまくいっても、もしかしたら利用客の明確な増加はないかもしれない。それは先程もインバウンドの話になったが、世の中の状況が変わると減少傾向

(事務局)	なる場合もある。施策そのものが効果を発していることを一番念頭に置いて評価をするべきである。目標値の設定はあくまでも施策を実施した結果として反映されることを期待するもので、今は因果関係が明確ではないので最低限の目標値としているということだと思う。この指標は公共交通の利用者数だけを評価するのではなく、人口や外出率、それを踏まえた公共交通の利用率等、色々因果関係がある数字なので、目標値としては乗車人員を人口で割っている。個別の数字を飛ばして評価するという事ではない。具体的な評価はそういう数値も含めて評価していきたいと考える。先程の文言の部分については追加させていただく。
(副会長)	交通の施策として皆が外に出やすくなる事をイメージできるような形で進めていただきたい。理念を踏まえた上で各施策があることを頭に置いておいてほしい。 もう1点、目次の「4.目標達成に必要な施策」の中に項目「4.1」があるが、これはいらぬのではないか。
(会長)	1点目については「3.戦略目標の選定」や、それを受けての「目標達成に必要な施策」、このあたりで受けるべき事かと考える。
(会長)	2点目の項目は工夫したい。 その他、意見・質問がないか。 なければ、先ほどの意見については会長一任ということで③岸和田市交通まちづくりアクションプラン【総合交通戦略編】(素案)については了承とし、終えたい。

④ その他	
(事務局)	本日、「岸和田市交通まちづくりアクションプラン【総合交通戦略編】(素案)」についてご了承いただいたので、今後の作業は本日のご意見を踏まえ、体裁等も整えた上で「岸和田市交通まちづくりアクションプラン【総合交通戦略編】(案)」としてとりまとめる。今後、パブリックコメント等を踏まえて30年度中の早い時期に成案とさせていただきたい。次回の協議会は【公共交通編】の進行管理もあり、平成29年度に実施した計画に基づいた事業とその評価等も整理した上、日程を調整し、ご連絡させていただきたいので宜しくお願いしたい。
(副会長)	パブリックコメントについて、他市の事例だが、ご意見がとても少ない。この計画に反対する人だけ意見を下さいという事がパブリックコメントの主旨ではないので、是非、それを理解した上で、このような計画を策定しているという事の周知がはかれるようご検討頂きたい。この会議の内容だけでなく色々なもの全てだが、パブリックコメントは形骸化しており、結局、批判的な考えを持った方、関心を持った方だけがアクセスをして意見を言う場合が多く、基本的には他の市もそうだが、反対意見に対してそのままになってしまう。むしろ肯定的な意見も欲しい。その第一歩としては、出来るだけ市民の皆さんに周知をしていただきたい。 もう1点は、分類できるくらいたくさんのご意見があって、それぞれについて前向きな検討が出来るような形を取っていただきたいと考える。
(会長)	多くの方から否定・肯定を含め、沢山の意見をいただきたいと考えている。周知のご協力をお願いしたい。 以上をもって、第5回岸和田市地域公共交通協議会を閉会とする。

岸和田市地域公共交通協議会会議運営規程第5条の規定により

平成29年度 第5回岸和田市地域公共交通協議会の会議録をここに署名する。

議 長

署 名

会議録署名人

署 名